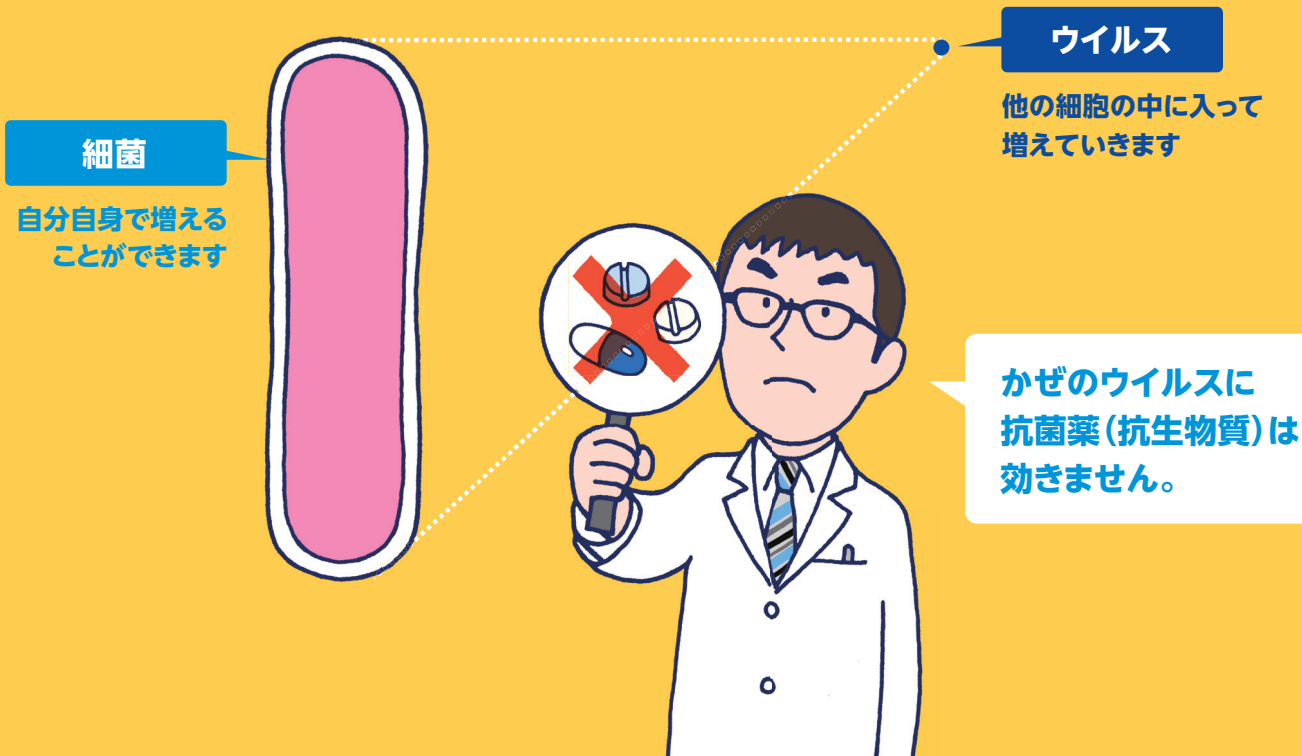


知ろう まもろう 抗菌薬

① 細菌とウイルスって どう違うの？



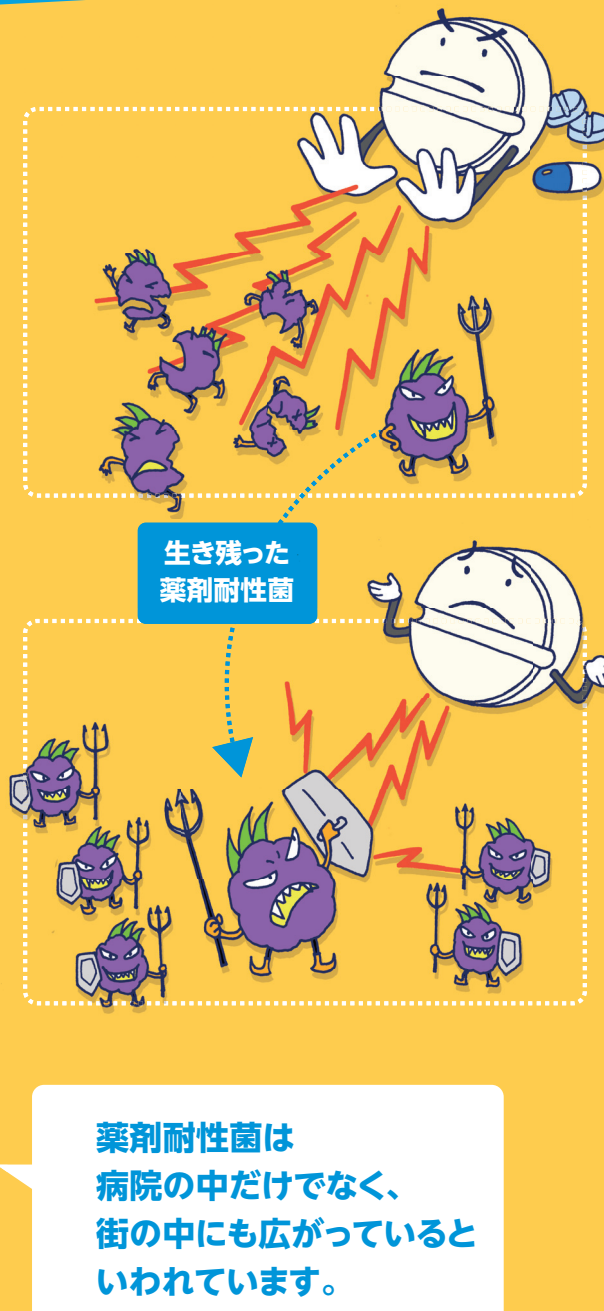
細菌もウイルスもとても小さな生物です。
大きな違いは、大きさと増え方です。
細菌はウイルスの約100～1000倍あり、自分でエネルギーを作ります。ウイルスは自分でエネルギーを作れないので、ほかの生物を利用して増えていきます。
抗菌薬（抗生物質）は、細菌をやっつける薬です。ほとんどの「かぜ」の原因であるウイルスには効果がありません。



② 薬剤耐性菌って なんだろう？



わたしたちの体には、たくさんの細菌がバランスを取りながら共生しています。この中にも抗菌薬の効かない細菌（＝薬剤耐性菌）がわずかにいることがあります。抗菌薬を飲むと、病原菌だけでなく、もともと住んでいる菌も退治されて、薬剤耐性菌だけ残り、増えてしまうことがあるのです。



③ もし、クスリが 効かなくなったら!?



抗菌薬の効かない菌（薬剤耐性菌）が増えると、これまで抗菌薬を飲めば治っていた感染症が治りにくくなったり、他の病気の治療に影響したりします。
現在、世界で薬剤耐性により年間約70万人が死亡しています。何も対策を取らなければ、2050年には約1,000万人が死亡すると言われており、世界的な問題となっています。



④ 人も動物も環境も 健康であるように



抗菌薬は動物の医療や、畜水産・農業などいろいろな分野でも使われています。薬剤耐性菌が食品や環境などを介して人に広がったり、逆に人から人以外の動物へ広がる可能性もあります。人だけでなく、動物や環境もみんなが健康でいられるよう、分野を越え、連携して薬剤耐性対策に取り組んでいます。

